

韓国珍島海割れ

海割れとは珍島と対岸の茅島の間が1年に一度大潮の日に汐が引けて道で繋がる現象で今年4月の28日18時30分でした。この現象をフランス人が紹介したので世界から見物に人が訪れるようになりました。海割れで有名なのは旧約聖書の出エジプト記でモーゼが迫害を受けて苦しんでいる同族のユダヤ人を引き連れ蜜が滴るカナンの地を求めエジプトを脱出する際スエズ海峡の海が割れ無事対岸のシナイ半島（シナイ山はモーゼが神から受けた10戒が有名）に渡ることが出来、後を追ってきたエジプト軍が海峡に達した時には海が満ち全滅したのは有名な話ですね。又仏蘭西の天然記念物モン・サン・ミッシェル、修道士が修業のため対岸に修道院を作り、今では本土との間に土堤が築かれ車で訪れることが出来ますが、昔は巡礼者は干潮になると現れる道を伝わって修道院を訪れますが帰途潮が満ちて来て溺れ死ぬ人が大勢いたという悲しい話も聞きました。珍島と茅島の間は2.8km その間に現れる道の幅は20m以上にもなることがあります。

(1) 海割れ

「雰囲気を盛り上げる踊りの一行」



「渡り始め」



「潮干狩りに夢中」



「長靴を履いて」



「海と陸」



「ぼつぼつ海割れも終わり」



「早い潮流」



「皆引き揚げ」



この海割れには一つの伝説が残されています。昔珍島では虎が暴れ回っていたので恐れをなした村民は皆対岸の島に逃れ住み、一人取り残されたポーお婆さんは対岸を眺め嘆き悲しんでいると突然海が割れ村民と一緒にすることが出来たそうです。左の写真はその故事を表しています。

以上で海割れ風景は終わりますが、道で見かけた光景を一寸紹介しておきます。

「新婚夫婦（左端）とその車」



「パーキングエリアの飴売り大包丁で刻む」



高速道路のパーキングエリアには建物内の店屋の他にこの様な車を使った店屋が駐車場内に多数出ています。

「豊南門」



「教会」



このような城門はソウルの南大門が有名ですがこれは全羅北道全州に残っている門でソウルと同様これに繋がる城壁はすべて撤去されています。朝鮮の町は昔は城壁に囲まれて造られていたようですね。

教会が示すように韓国にはキリスト教徒が多く。全人口の30%をしめるそうです。そういえばシナイ山に登った時韓国人の団体が賛美歌を歌いながら日の出を待っていたのを覚えております。その麓にはセントカテリーナ寺院もありますし。

「チーズ村」



左はチーズ村の入り口にあるモニュメント、右は工場で作られたチーズの保管棚です。韓国は森や林は少なく松がまばらに生えている程度ではげ山が多い。茫々と広がる原野を眺め外人の宣教師が牛を飼いチーズやヨーグルトを作ることを勧めたのがこの村の始まりだそうです。その外人はまだ健在だそうです、彼が亡くなったらその労に報い長く顕彰するため、モニュメントの真ん中上部にある円盤を外し、彼のレリーフを刻むそうです。

「韓国独特の入母屋造りの家屋が並ぶ韓屋村」



薨の波は中国の世界遺産「麗江」を思い出させますね。

「韓国で有名な春香伝と石橋ウジャク橋」



左の写真が春香伝の主人公キーセンの春香の肖像画です。彼女には言い交わした男性がいましたが彼の父の転勤でその男とは再会を約し別れます。彼女は非常な美人でしたので彼女に魅せられた悪代官は甘言を弄し又拷問を加えるのですが死をも覚悟した彼女は一向に靡きません。一方男性は刻苦精励、科挙の試験に合格し、地方観察史としてこの地を訪れ悪代官を懲らしめ、二人は漸く何ら憂い無く結ばれることになりました。

右の写真は相思相愛の男女が一年に一度会えるように造られて橋だそうです。それこそ天の川の牽牛織女、七夕物語ですね。

「ソウル南大門市場」



右の写真は市場の横町にずらりと並ぶや台風の食べ物屋です。安くて美味しいところに連れて行くという現地ガイドと共に訪れたのですが、この様なところは生まれて初めての経験、度肝を抜かれました。値段は4000ウォン/人、日本円で300円ぐらいですか。

報道によるとH1N1が全世界に広がってきているようで、韓国でも疑わしい人が数人出ているようですが、検疫用紙を記入させられただけで騒ぎにならないうちに帰れて良かったです。

以上でとりとめもない話を終わります。